



### パンチョ・ビリヤの首はどこへ行く？

この物語は、1926年に墓の盗掘にあって以来、行方不明となっていたパンチョ・ビリヤの首が、主人公ヘクターの前に置かれるところから始まる。一気に火を噴く、首を巡る争奪戦。ヘクターは、新米詩人バドとエキストラ女優アリシアをお供に、首を燃るべき相手に届けようとするのだが……。ロードムービーさながらの、ヘクターと首の軌跡を見てみよう。

- ①シウダーフアレス  
目の前にビリヤの首がドサッ。
- ②ラシメーヤ  
ヘクターのマイホームにイエール大生が次々と乱入。
- ③エルパソ  
カウボーイ風の共和党員(?)に銃を突きつけられる。

④ヴェニス  
オーソン・ウェルズの撮影現場。マレーネ・ディートリッヒにヘミングウェイとの関係をたしなめられる。“肉食獣”フィエロの手下に銃撃される。

⑤ロサンゼルス  
S&Bトリオに遭遇。フィエロに銃撃される。プレスコット・ブッシュと話す。ビリヤの頭蓋骨から地図(?)を取り出す。FBIに呼び止められる。元傭兵ホルムダールに事の全容を聞きだす。

⑥ティファナ郊外  
フィエロに誘拐されたバドを助ける。フィエロを仕留める。

⑦ヴェニス  
オーソン・ウェルズと決着をつける。

⑧ラシメーヤ  
ビリヤの本物の首を回収

⑨チワワシティ  
さて、首の行方はいかに？

# この圧倒的スピード感。 —大森 望さん

先に

## 小説を読むか? 解説を読むか?

本書には著者が愛して病まない映画や文学作品のトリビアが満載。「文学ファンと映画ファンなら、節々で一言コメントしたくなるようなニヤリと楽しめる小説。一読をお薦めしたい」と、池上冬樹氏が本作巻末の濃厚な〈解説〉でそれらを一部、フォローをしてくれている。先に小説を読んで「あの場面はこういうことだったのか」と頷くもよし、〈解説〉を読んでから小説をより深く噛みしめるのもよし。

## 英雄？ 犯罪者？ パンチョ・ビリヤの一生

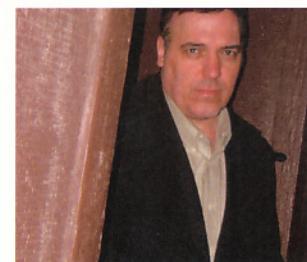
本書では、カメオ出演ならぬ“しゃれこうべ出演”的パンチョ・ビリヤ。

この男は一般に「メキシコ大衆の英雄で、アメリカの敵」とされている。ずっと彼の一生を見てみよう（もちろんパンチョ・ビリヤを知らないでも小説は楽しめます）。

1878年	誕生。
	6歳で山賊の仲間入り
1911年	メキシコ大統領ディアスの独裁政権と戦う
1912年	独裁政権側のウエルタ将軍の命で逮捕されるが脱獄
1913年	ウエルタに対抗する革命軍に加わる
1915年	国軍の支持を得るオブレゴンと激突、大敗
1916年	旧体制を支持するカラサンが大統領に就任。それを承認したアメリカに抗議し、暴れる。アメリカはビリヤ懲罰部隊を派遣するが翌年、遠征は失敗。
1920年	和平協定にてビリヤは武装解除。農園主として平和に暮らす
1923年	暗殺される

## 愛すべき、 映画や犯罪オタクか！? クレイグ・マクドナルド

【著者紹介】 Craig McDonald クライム・フィクションをこよなく愛する、アメリカのジャーナリスト、エディター、小説家。彼の短編作品は度々、文芸雑誌やアンソロジー、クライム・フィクションのウェブサイトなどにお目見えしている。07年に本作(原題HEAD GAMES)で長編小説デビュー。08年のエドガー賞、アンソニー賞、ガムジー賞などにノミネートされている。ヘクター・ラシターのシリーズを4作刊行。シリーズ外の小説『EL



GAVILAN』も発表。またノンフィクションにも定評があり、特に彼のライフワークとも言えるクライム・ライターやミステリー作家へのインタビューをまとめた『ART IN THE BLOOD』も好評。



S&Bのマーク

●充実のHPは [www.craigmcnaldbooks.com](http://www.craigmcnaldbooks.com)

何とも  
颶爽とした  
作品ではないか。  
—池上冬樹さん